

ちりべつ  
知利別川水系河川整備基本方針

平成13年7月

北海道

# 知利別川水系河川整備基本方針

## 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域の概要	1
(2) 治水の現況	1
(3) 河川の利用の現況	1
(4) 流域の自然環境	2
(5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	2
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量 に関する事項	5
(参考図)	
知利別川水系流域概要図	6

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 流域の概要

知利別川水系は、その源を北海道室蘭市神代町の鷺別岳の南側山腹に発し、高砂川等の支川を合わせ、室蘭市街地を貫流し、室蘭港に注いでいる。

河川の名前は、一説によると、アイヌ語のチリ・ペツに由来し、「鳥・川」（川に鴨が群れ集まっている）の意と言われている。

流域面積は9.7km<sup>2</sup>、幹川の流路延長は6.5kmであり、室蘭市中心部を流下している。

流域内の土地利用状況は、下流部において、室蘭市の基幹産業である鉄鋼を主体とした工業地帯、室蘭市の中心商業地区、住宅地区などとして利用されており、上流知利別貯水池では工業用水の取水がなされている。現在、流域の約30%が宅地であるが、近年さらに増加傾向となっており、室蘭市における社会・経済の基盤をなしている。

### (2) 治水の現況

河川改修着手前の知利別川は、河川断面が狭小であったため、氾濫を繰り返し、洪水被害が多発していた。このため、昭和35年～昭和47年にかけて、河川改修を断続的に実施してきた。しかし、昭和55年8月には満潮時に集中豪雨が発生したため、河口部付近を中心に家屋浸水901戸という大規模な災害が、続く昭和56年8月にも浸水被害が発生したことから、計画規模の見直しを行い、昭和56年から河川改修に着手している。

事業実施にあたっては、知利別川及び周辺にある樹木が市街地中心部の貴重な緑地帯としての役割を果たしていることから、これらの保全に配慮するとともに、地域住民などの意見・要望を踏まえて、洪水のない安全なまちづくりや、住民やここを訪れる人たちが親しみやすいふるさとの川づくりをめざし、「水と緑とふれあう憩いの川」を基本テーマとした河川改修を下流部において実施しており、河道の流下能力を向上させるとともに、遊歩道などの親水設備の整備や緑の連続性に配慮し、市民と連携を図りながら植栽を実施している。

### (3) 河川の利用の現況

河川空間については、「鉄のマチ」室蘭の中心市街地を貫流していることから、中流部の両岸にある遊歩道は、商店街を利用する人や沿川住民の往来する空間として利用されているほか、向陽公園に隣接した人道橋はイベント広場などのコミュニティ空間として利用され、広く親しまれている。

知利別川の流況は、平成4年～平成9年の観測によると、知利別川観測所地点において最低濁水流量は約0.02m<sup>3</sup>/sと極めて少なくなっている。

#### (4) 流域の自然環境と河川環境

知利別川流域の気候は温暖で、流域内に位置する室蘭市の年平均気温は約8℃である。年平均降水量は約1,200mmと道内では平均的な量であるが、積雪は少ないほうである。また道内有数の強風地帯で冬は北西、夏は南東の季節風が卓越する。

地質は流域の丘陵地平坦面には丘陵堆積物が分布しており、周辺山地の大部分は第四紀火山噴出物からなり、山裾には第三紀の本輪西砂岩、頁岩互層が分布する。中島神社（丘陵地）下流部は、海岸平野や現河床を形成する砂、礫、粘土、火山灰などからなる堆積物が分布し、一部に海岸砂丘を作る砂丘堆積物が分布している。

知利別川は河川改修によりほぼ直線化されており、河岸はコンクリート護岸で覆われている小河川であり、室蘭市市街地部を貫流している。

知利別貯水池から上流域は、自然草原とエゾイタヤシナノキ群落が優占する山地部の谷底を蛇行を繰り返しながら流下しており、周辺山地部ではエゾタヌキ、キタキツネなどの生息が確認されている。

知利別貯水池の下流域は、その沿川が工業地区、商業地区、住宅地区として高度に利用が進んでおり、知利別川沿いに植栽されたムクゲ・エゾヤマザクラ・ヤチダモ・アヤメなどは、市街地中心部の貴重な緑地帯の役割を担っている。河道形状は過去の河川改修によって、河岸はコンクリート護岸で覆われており、河床は小規模な淵などの形成が見られる所もあるがほぼ平坦となっている。水の流れは単調で量も少なく、河道内植生の生育はあまり見られないが、イバラトミヨの生息が確認されているほか、ウグイやキンブナなどは下流域全体で確認されている。水質については日常的に問題が発生する状況ではないが、下流部では濁水時において、下水道未整備区域からの流入水の影響を受けて、また、河口部から杜下橋区間では、室蘭港からの浮遊物質の流入により水質が悪化することが確認されている。

河道周辺では、室蘭市の鳥「ヒガラ」や沿岸性の鳥類オオセグロカモメなどの飛来が確認されている。

#### (5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、水害の発生状況、治水事業の現状、河川の利用状況ならびに河川環境を考慮し、水源から河口まで一貫した計画のもとに、次のとおりとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、知利別川流域の社会・経済的な重要度と道内の他河川とのバランスを図りつつ、昭和56年8月の既往最大洪水を踏まえ、概ね50年に1回の確率で発生する規模の洪水の安全な流下を図る。

整備途中段階における施設能力以上の洪水や計画規模を上回るような洪水に対しては、水防管理者等の関係機関へ河川情報等の伝達体制整備を行い、被害の軽減を図る。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、現状における河川の利用状況や渇水時における流況、ならびに室蘭港からの浮遊物質の流入による水質悪化の状況を踏まえ、水量・水質等の把握を継続していくとともに、利水者や関係機関との連携や調整を行いながら、渇水時における被害の軽減や合理的かつ適正な水利用が図られるよう努めるものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、自然環境及び河川利用の実態の把握に努めながら、治水と利水との調和を図り、知利別川が市街地中心部の貴重な緑地帯を形成していることに配慮し、現況河畔林の保全を実施するとともに、変化に富んだ流水の創出に努め、動植物の生息・生育環境の保全を図る。一方、下流域においては人々が水辺に近づくことができる親水施設整備や都市景観と調和した良好な水辺空間の形成を目的とした整備を行い、地域住民と河川との豊かなふれあいの場の確保に努めるものとする。

河川の維持管理については、災害の発生の防止や河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に配慮するとともに、周辺住民やここを訪れる人たちに安らぎを与える、市街地帯における貴重な水辺の緑の景観を形成している緑地帯の整備と保全を地域住民や関係機関と連携を図りながら行うなど、適切な実施に努めるものとする。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設等への配分に関する事項

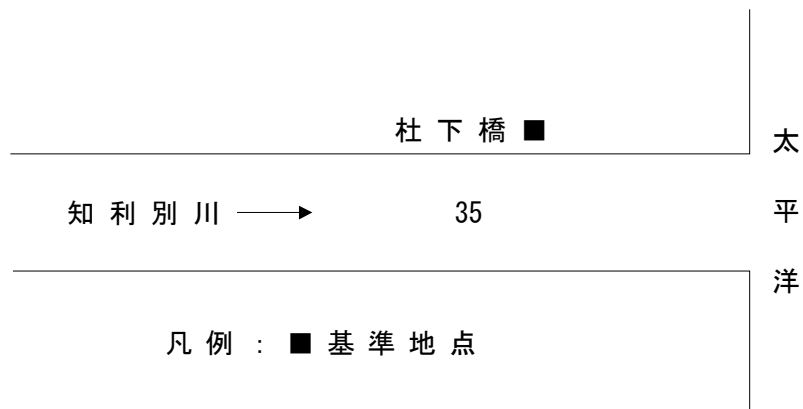
基本高水のピーク流量は、昭和56年8月の既往最大洪水を踏まえ、概ね50年に1回の確率で発生する規模の洪水を考慮して、杜下橋<sup>もりした</sup>基準地点において $50\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち洪水調節施設により $15\text{m}^3/\text{s}$ を調節して河道への配分流量を $35\text{m}^3/\text{s}$ とする。

基本高水のピーク流量等一覧表 単位： $\text{m}^3/\text{s}$

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
知利別川	杜下橋	50	15	35

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

知利別川における計画高水流量は、杜下橋地点において $35\text{m}^3/\text{s}$ とする。



計画高水流量配分図（単位： $\text{m}^3/\text{s}$ ）

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T. P. (m)	川幅 (m)
知利別川	杜下橋	1.5	+2.80	8

(注) T. P. : 東京湾中等潮位

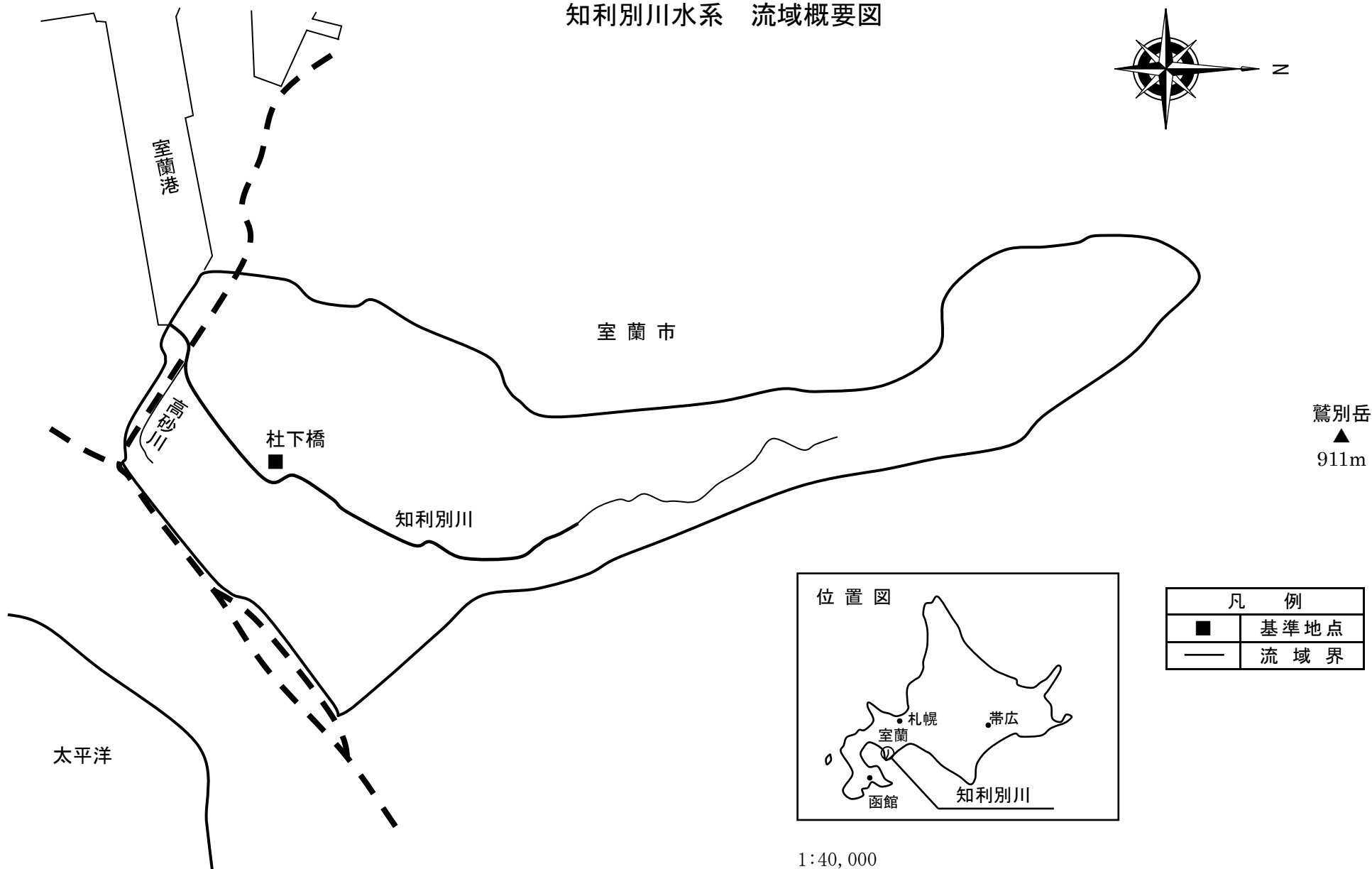
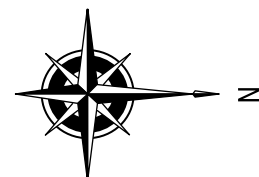
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

知利別川の利水としては、上流知利別貯水池地点に、通年 $0.0662\text{m}^3/\text{s}$ の工業用水の許可水利権がある。

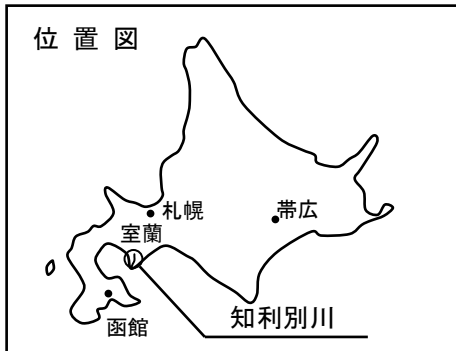
また、知利別川観測所地点における過去6年間（平成4年～平成9年）の平均湯水流量は約 $0.03\text{m}^3/\text{s}$ 、平均低水流量は約 $0.05\text{m}^3/\text{s}$ である。

知利別川における流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、今後、流況等の調査を引き続き行い、利水の状況、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮して定めるものとする。

# 知利別川水系 流域概要図



鷲別岳  
▲  
911m



凡 例	
■	基準地点
—	流域界

1:40,000

